

# 府中市総合教育会議会議録

## 1 開会の日時

平成30年10月25日（水） 生涯学習センター 研修室  
（平成30年度第2回） 15時30分 開会

## 2 出席委員

小野市長、平谷教育長、骨田委員、古川委員、高橋委員、和知委員（6人）

## 3 委員以外の出席者

村上副市長 栗根総務部長  
石川教育部長 大和総務課長 門田学校教育課長  
谷口生涯学習課長 長岡総務課主幹 大川学校教育課主幹  
近藤総務課庶務係長

## 4 協議事項

（1）府中市教育大綱の策定について

## 5 報告事項

（1）全国コミュニティ・スクール研究大会について

16時25分 終了

## 総合教育会議

小野市長 皆さん、こんにちは。お忙しいところありがとうございます。それでは、ただいまから平成30年度第2回府中市総合教育会議を開会いたしたいと思います。

きょうの会議では、前回の総括や意見交換の内容を踏まえまして、新たな教育大綱の案をお示しさせていただきましたので、その内容につきまして御協議をいただきたいと思いますので、カハツよろしくお願いいたしたいと思います。

また、本日も前回同様、石川教育部長に司会進行お願いいたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、石川教育部長、よろしくお願いいたします。

石川部長 教育部長の石川でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、先ほど挨拶の中で小野市長が申されましたとおり、府中市の新たな教育大綱（案）につきまして御協議いただきます。前回の会議で、現在の教育大綱につきまして多くの意見を受け、総括といたしました。その内容につきましては、府中市教育大綱総括、お手元のほうの資料にあると思いますが、（総括）といたしましてまとめております。基本的には、方針に沿った取り組みがされているということで、おおむね順調であるということとしております。また、前回新たな教育大綱の策定に向けた小野市長の考えに対しまして、意見交換をしていただきました。そのことも踏まえ、小野市長から府中市教育大綱（案）として御提示いただいております。

まず初めに、この教育大綱（案）の内容につきまして、事務局から簡略に説明させていただきます。お願いします。

事務局 失礼いたします。それでは、教育大綱（案）について御説明させていただきます。教育大綱はホチキスどめのこの2段の書式になっているものをお手元に御用意ください。

これは、2段取りになっております。用紙の左側、ゴシック体のほうが大綱（案）、そして右側のほうには明朝体で皆様からいただきました御意見をそれぞれ載せさせていただきます。そして、大綱（案）の文中、網掛けをしている箇所がところどころございますが、それは皆様からいただきました御

意見を反映させていただいているという目印でございます。そしてもう一つ、このカラー刷りの2種類があるのですが、これはあくまで大綱（案）のイメージでございますので、参考にいただければと思っております。

それでは、教育大綱（案）、このホチキスどめのものについて順次説明をさせていただきます。

まず、表紙です。府中市教育大綱～「可能性」と「チャンス」を生かす教育のまち～としております。このタイトルを初めとしまして案としてお示しするものは、これまで先進的に取り組んできた小・中一貫教育とコミュニティ・スクールとをさらに推進・充実させていくという方針を根底におき、国の第3期教育振興基本計画に掲げる今後の教育政策の方向性にも沿った今後の府中市の教育政策に関する基本的な方針を定めるものとなります。前文としてチョウの左の下のほうですが、「府中市から将来を担う人材を羽ばたかせ、生涯にわたって学習や能力向上に取り組むことのできる教育を展開する。それが府中市の教育です。」と明記しております。

では、1枚めくっていただきまして、2枚目になります。次に、大綱策定の趣旨として、法に基づく制定であり、その期間は平成30年12月から平成35年3月まで、平成34年度末までとしております。そして、大綱の基本方針と取り組みですが、府中市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものとして5つの柱だてとしております。

1つ目が、「可能性に挑戦し、チャンスを生かす資質・能力の育成」ページが変わります。2つ目が、「生涯学び、活躍できる人材の育成」3つ目「誰もが社会の担い手となる学びのセーフティネットの構築」4つ目「教育基礎の整備」5つ目「まちづくりへの貢献」といたしております。皆様からいただきました御意見を反映させ、表現方法や使用する言葉を検討いたしまして、このような案とさせていただいております。これまでの3年間で「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体の育成」に努めてまいりましたし、表現は変わりましたが実践内容が変わらないもの、また継続して取り組むものもでございます。今後は首長部局との連携によって教育施策をより大きく関心が広が

り、より大きく展開することのできるよう、まちづくりへの貢献を意識した事業実施が大切であると考えまして、この5つ目の柱としております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。

石川部長 ただいま、新しい府中市教育大綱（案）について説明がありましたが、委員の皆様から御意見や御質問をいただいて、新たな教育大綱の策定に向けて案をフラッシュアップしていきたいと思っております。ただいま説明のあった方針が期待されるものであるか。また、わかりやすく適当な表現であるかなど、お気づきの点につきまして忌憚なく御発言いただければと思っております。

それでは、どなたからでも結構でございますので、教育大綱（案）につきまして御発言をお願いいただければと思います。いかがでしょうか。どうでしょうか。

古川委員 失礼します。1つは、文章表現において、1、可能性に挑戦し、というところ。1、2、3行目に、小・中一貫教育を中核に保幼小連携、点があるのですが、この点があるために保幼小の連携と、それから中高の連携、別物のように感じるのです。打ち出されている考え方がゼロ歳からはちとかいう大きなことと出しておりますので、そこらを含めていい表現はないかなと思います。

石川部長 ありがとうございます。これは確かに、実際には保幼小からずっと高等教育まで、さらには社会人ということを目指しておりますので、改めて文章表現はまた検討してまいりたいと思います。

ほかに何かございませんでしょうか。

古川委員 もう一ついいでしょうか。府中市では、生涯にわたって大事なコミュニケーション能力にも取り組んでいるというふうに思っております。今の社会情勢というのですか、その中で今も盛んに話題になっておりますけども、相手と向かい合って話をする力というのですかね。それがどこかに入らないものかなというようなことも思います。

石川部長 言葉として入れられたいのですかね。

古川委員 ちょっとそんな言葉があると何かわかりやすい。

平谷教育長 今回のコミュニケーション能力で言えば、1の資質・能力

の育成の中には当然入っているのだとは思いますが、改めて言葉として入れるとなると、難しいですね。趣旨のところに、変化に対応することのできる力、そこにも1つは出てくるのですけれども。そこと並べて入れられるのかどうかという辺りも踏まえて、考えていかなきゃいけないのかなと思います。

ちょっと細かいことになるんですが、の大綱策定の趣旨で、一文目ですよ。これからの教育には、人間だからこそ学ばなければならないものが必要ですという、なるほどと思いますが、2文目と1文目が何かうまくつながっていないような気がして、文章的にどうなのかなというのがあるので、その辺りをもう一回整理してみる必要があるのかな。端的に言えば、これからの教育では主体的な学びの推進を図りながらとずっと続けてもいいのかなという気がしました。整理をしていく必要があるかなと思いました。

石川部長       ほかには何か。

高橋委員       この府中教育大綱は非常にいい内容で盛り込まれていらっしゃると思うのですが、ちょっとよくわからないのが1点ありまして、2020年からの教育指導要領が大幅に変わってくるとかいう話もちょうとお聞きさせていただいて、これが平成35年3月までですと、その大きな変革があるのであれば、その辺をどういうふうに今後取り入れていくのかなと、ちょっと懸念するところがあるのです。時期がずれていますから。もしそれがないのであればもうこちらでいいと思うのです。その辺をどういうふうに今後踏まえていけばいいのかなと。

平谷教育長   確かに、若干の年数の違いはあるのですが、もう既に新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育はやっていかないといけないのです。この時期から。ということになると、もう既にこの中へ、例えば主体的な推進を図っていくとか、さっきの可能性とかチャンスという言葉、これも国の大きな考え方でもう入っているものですから。

高橋委員       だから、大きい枠ではいいと思うのですが、ただ2020年から変わるそのテーマみたいなものが、例えば生きる力じゃなくて生き抜く力とか、もしそういうふうな言葉遣いに変わるのであればどうなのかなと。その辺私もちょっとまだ詳しいところがはっきり見えないので何とも表現の仕方がよくわから

ないところがあるのですけれども。多分大枠で捉えるとほぼ一緒だと思うのですが、そうした言葉を取り入れたほうがって言った方がいいのか。今後。

石川部長 高橋委員が言われているのは、実際これ全体が、今教育長が言ったように、その対応は全て入っているのですが、見た中で変わるという意味での言葉が足りないことですね。例えば、趣旨のところでも少し盛り込むかですね。2020年から新しい指導要領が変わっていくとかいう。全体としては、教育長が先ほど答えられたように、第3次教育振興基本計画自体がもう既にその指導要領を前提とした計画となっていますので、これ全体として内容はその方向へ向かっているのだけど、一般の人が見たときに2020年から変わるというのに、これで言うと年度中途から変わるのに、そのことがわかりにくいということですよ。

高橋委員 恐らく、国から県へおりてきて、県からまた市町村へ、そういった指導とかの方針がおりてくると思うのですが。

古川委員 先ほど教育長が言われたように、府中市の教育ではそこはもう含んだ教育が既にされているので、その部分について多分指導されるということはほとんどない。ただ、一般に人からすると区切りの部分でわかりにくいということだと思っておりますよ。

高橋委員 少し事前にそういう内容がわかってらっしゃったら、ちょっと言葉を盛り込んでおかれるといいのではないのでしょうか。

小野市長 教育長がさっき言われた、この学びの変革じゃなくて、生きる力という部分がその部分だと思うのだけど、高橋さんが言われたように、もしその新しい部分でさらにこれに加えたものが出れば、そのときは、だから今の時点で2020年の指導要領の変更を見据えてとかいうのはちょっと書けないので、そのときにまた、さらに追加して一步踏み込んだもので出れば、出たときにまた今度は何らかの形でそこを加えていくしかない。そういう意味ではないのですか。

高橋委員 それは可能なのですか。

小野市長 府中市が今やっている教育というのはもうそこに向かってというか、既にそれを取り込んだ状態で教育をスタートしているので、例えば2020年新たに何か言葉が変わるとか、追加した指導が入ってくるということはもう既にはないです。もう確

定値なので。ただ、一般の市民からすると、2020年に変わると言われているから、もしかしたら変わるのではないかと  
いう。

和知委員　もう既にそれを見据えてやっているということ、この中に入れたらよいということですね。

高橋委員　ということですね。それが一番わかりやすい。先取りしてということですね。

和知委員　そうそうそう。そうですね。それを一言入れてあればいいのではないかとということですね。

門田課長　学習指導要領は幼稚園、小学校、中学校、高校までを対象にするものです。この教育大綱は、府中市に住む全ての人々の生涯にわたる教育を大綱的に示すものになるから、限定的に言うと学習指導要領は本当に学校教育のみ。それと、これはもう29年の10月に告示されていて、そこでもう流布されてそれに従ってもう教育進んでいると。この第3期教育振興基本計画は、30年の6月に、つまり告示をされたあとにそれらを統括して閣議決定されているものです。これが教育基本法の第17条に基づいて5年ごとにつくられているということになると、今のその学習指導要領に出ている言葉は、全て教育振興基本計画の中にもう含有されていて、それも5年ごとに変わっていくってこと。その中のキーワードのほうが上位概念として整理されているものです。それをここに組み込んで、学習指導要領には可能性とかチャンスというのがキーワードである。突出して出てきたわけではございません。ただ、学習指導要領の先には、一人一人の可能性やチャンスを生かすことにつながるのだということが、この振興計画でキーワードとしてトピックされる。それを今度府中市としては話題にしていきましょう。生涯にわたっていきましょうということになる関係図になっていきます。だから、大綱策定の趣旨の中に学習指導要領だけを入れていくと、学校教育に絞っていくような、概念的には少し狭めてしまうことになるかもしれませんね。

高橋委員　小、中、高に、学校に対してそういうやっぱり説明も、大綱を踏まえた御説明を今後していただいたほうが、やっぱりわかりやすいかなと思います。そこまで府中市は考えてやってくださっているのだなというふうなところが見えてきますので。

平谷教育長　　そういう意味では、ここの本文の中に書き込むか、いろいろな計画ものをつくるから、冒頭挨拶みたいな、あそこの中で思いたとか経緯、経過だとかいうのを書けばそれで済むかもしれませんし、やり方はいろいろあるかもしれません。

石川部長　　ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。

骨田委員　　5つ目のまちづくりへの貢献の部分ですけれども、ほかの項目と比べて見ると、何か非常にざっくりした感じですよ。何かこう表面だけタイトルをつけてみましたというようなイメージがあるのです。項目を一つずつ読んでも、イメージしにくいというのですかね。何かもうちょっとその教育の面からのまちづくりへの貢献というのであれば、文書の始めのところ、この2行目あたりまで、備後国府や上下天領など理解を深め、地域力の創造につなげますというような形だとわかるのですけれども、スポーツを生かしたまちづくり、その辺がもう少しわかりやすく言葉として出てきたらいいのかなと。食育についても、余り細かく説明をする必要はないと思うのですが、もう少しイメージしやすいような言葉があったほうが、ちゃんと計画が大綱としてできてきているのかなという感じはします。

石川部長　　それは、今の5の項目の括弧書きじゃなくて、前文のところへということですね。

骨田委員　　そうですね。前文のところになりますよね。この歴史文化については前文で挙げているので。それにそろえて文章に加えていったほうがいいのかな。

石川部長　　ありがとうございます。ほかに。

和知委員　　4の教育基盤の整備の3番の学校のICT環境の充実というのは、具体的にどのようにお考えになっているのかなと。文章としてはいいです。文章としてはいいのですが、学校にこういうものを導入する計画があるとか、そういうようなお考えがあるのかどうかちょっとお聞きしたいなど。

平谷教育長　　ICT環境は国もそこはしっかり充実していけということで、いろいろ計画も出しています。正直言いまして府中の場合は、各学校へタブレット型のパソコンを40台は整備できました。ただ、そのWi-Fi環境とか、まだまだそこは十分ではないし、国が今言っているのは、3学級分で1学級分ぐらいのものを何年間かの中でそれぐらいの整備は必要じゃないかと

か、あるいはパソコンだけじゃなくて大型の提示装置、大型テレビですよ。ああいうものとか、教材提示装置って手元を映して画面としてパッと出るとか。そういったことも含めて環境整備を国としても進めていこうというようにしております。例えば小学校で言えばプログラミング教育が入ってきます。だから、当然ICTをきちっと使いこなしていかなければいけない子どもたちです。これからの社会では。そういった意味では、計画としては今やっているタブレット型が入った。じゃあ次はどうしたらいいかなというのを今考えているというか、希望はあるのですがまだ具体にはなっていないという状況の中で、ただ私もそこは言いたかったところなのですけれども、来年度は例えば空調とかいろいろな校舎の改修なんかが一段落するか、並行してやるかわかりませんが、そのICT環境の整備は当然にやっていって、その中で子どもたちの教育の充実というか、学び方の充実も含めて、やっぱり進めていかなければいけない時期にはもうなっているのではないかと思います。

石川部長 同様にICT環境で言うと、教科書が書籍から電子書籍にということも国はもう全てということではなくてチャレンジできるところはしていいという方向へシフトしていますので、それからするとそういうICT環境になれた環境をつくっていかないといつかは対応できなくなるということもありますよね。

小野市長 例えば、グローバルな人材の育成や、ALTとの交流、この前明郷学園でやったテレビ画面を使った台湾との交流とか、もっとふやして行って、もう本当に簡単にいつでもできるようなやり方もあると思うのですよ。だから、そういったソフト部分も充実させながら、学校の環境整備とかをしていかないといけない、ICTとかスカイプみたいなものを使うとか、そういった整備も合わせてできるのではないかなとは思っているのですよね。

骨田委員 そうですね。

高橋委員 いろいろなそれこそ可能性というか、どうなるかというのを探りながら整備をしていけばさらにまたプラスの効果が出てくるかと思えます。

和知委員 そうですね。あと学力の差のある子どもさん。同じ学年でもである。その子に合った教材というのもできるのではないかと

などというのもありますから、それとか。

骨田委員　　そうですね。あと、病気で学校に来れない、でも、家で一緒に学習できるというようなものができたらやっぱりちょっとでも早い段階に子どもたちに加えてあげたらいいんじゃないかなって。

平谷教育長　　特別支援教育でも子どもさんに対しての有効な手だてだと言われていきますからね。どれだけ取り入れていくか、どういう問題に取り入れていくかというのは、計画的にそこはやっていただけるとは思うのですが。ただ、国が今後どれだけ予算をつけるかわかりませんので、そこらも踏まえながら進めていきたいですね。

骨田委員　　そして、そういった基盤をつくるのも実際に実施していくのも当然、非常にそれが一番メインなのではすけれども、じゃあこういうことをやっているよとか、こういうふうに府中市進んでいるよというのを保護者さんに伝えるときに、いまだにずっと紙媒体じゃないですか。多分家庭で毎月、毎日多くの紙がきまして、困ってらっしゃる家庭もたくさんあると思うのです。保健だよりとか給食だより。それだったら、すぐ捨てられるような紙ではなく、多分全て100%ではないにしても、今端末を持ってらっしゃる方が多いと思いますので、そういった面からアプローチするという方法も、いずれはそういうふうにしていったらどうかなというのを、ちょっとこの大綱とはずれれるかもしれないですけど、教育現場としてそう進んでいってもいいんじゃないかなと思います。現在の学校の個々のホームページを見ていると、大分、あれこれいつの情報かなというような、いつから更新していないのだろうというような学校がちょいちょい見られますので、そこら辺をきちっとしていったらいいかな。やっぱり紙は読まないけど、スマートフォンで見るよという保護者さんは、今若いお母さん方は非常に多いので。

和知委員　　いつでも見れるという利点がありますよね。

骨田委員　　だから、行事予定をもらっても、撮って端末で全部毎回確認するという方が、大概じゃないですかね、今は。

平谷教育長　　すばらしい考えだと私も思うのですが、学校としては全ての子どもにきちっとわたることを大切にしています。今まだそこが難しいところがあって、例えばさっきのタブレットじゃ

ないですけど、1人1台の時代になればそれはそれで配信しておれば全ての子どもが持っているのですから、保護者も絶対見られるでしょうが、全ての親が持っておれば問題ないですけど。

骨田委員　　そうなのです。今100%って言えないところがちょっと問題なのですよね。

古川委員　　それを言ったら、今メール配信しよるわけでしょ。あした休みですよとか。修学旅行どうですよって。基本的にはみんなに届くのか、持ってない人には電話連絡してるのかよくわからないですけど。

石川部長　　基本的には、メールでやるケース、漏れがあっちゃいけないので、改めて電話をもう一度ということで、二度手間。二度手間という言い方はおかしいですけど、漏れがない。さっき教育長が、絶対漏れがないようにという対応を各学校やっていますので、そういう意味では確かにプリントは捨てられたりなくなったりするケースはあります。だから、プリントと電話の2つでやるのかとなると、それはそれで負担をどんどんかけるようになりますから、その辺はさっき教育長が言われたように、1人1台のタブレットを持って確実にあるという段階にならない限りは難しいんじゃないかなということですよ。

ありがとうございます。ほかに何かないでしょうか。

平谷教育長　　私も教育基盤の整備の学校施設の充実のところに入るかなと思いつつ考えたのですか、どっちかと言えばこれは、子どもの教育の充実ということになるのですよね。それはそれで当然なのですけれども、やっぱり前も言ったかもしれないですけど、指導する側の環境の整備が必要なんじゃないかと。働きやすい職場環境の充実と整備。その視点も教育のまち府中ということだったら、子どもも大事にしているけれど、先生も大事にしているのですよというメッセージを何か届けたいなという思いがあります。そこらもできればこの中に取り込んでいければいいかなというのは思いました。

石川部長　　先ほど助言の中でもあったように、教育基盤の整備のタイトルにタイトルをつけているような表現に文章がなっているということで、文章中でこの内容をもう少し具体的な内容を書き加えることで、その辺はわかりやすくしていきたいと思えます。ほかにはどうでしょう。

高橋委員 最後に1つ。この大綱の中に記載されていることはどれも大事なことでどれも全てやっていかなきゃならないことなのですけれども、市長さんとしてまずここは重点的にやりたいとか、これからやっていきたいとかいう何か思いがおありになったら、ちょっとお聞かせいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

石川部長 実は次聞こうかと思っていました。

小野市長 先ほどからも出ていますように、学校がいろいろ教育を進める中で、やっぱり環境整備を、どちらかと言えば今までやっぱり限られた予算でもあったので、なかなか教育関係に予算を使えなかったので、多少そういった点もある中で、環境整備が未整備のところがあったかなという思いがあるので、ぜひその学校環境の、学校教育環境の整備をしたいという思いの中で、具体的に言えばエアコンについては来年全校に設置をしていきたいというところがあります。それから、やはり先ほどから出ていました、グローバル化を進めるのであればその環境整備、タブレットあるいはパソコン等を含めて大切に、優先順位が高く、まず取り組むところになるのかなと思います。あとは高橋さん言っていたとおりのどれも大切なことばかりです。いわゆるゼロ歳から大人までという中で考えると、教育委員会のほうも保幼小の連携も含めて、あるいは保幼小中高とか、また産業界との連携などをやっていきたい。あるいは大学の勉強も取り組んでいただいておりますので、そのあたりでまた整備していかないといけないところが出てくると思うのですが、取り組んでいきたいと思います。

府中は本当に教育のまちということで、一番いいと思っているのはコミュニティ・スクールで今取り組んでいただいて、地域の方が非常に学校にかかわって一緒になって子どもを育てようという気概を持っていただいている。地域の産業界の方がこれだけ子どもたちの教育に協力的なところもないんじゃないかと思うぐらい、産業界も随分子どもの教育に協力していただいているので、ぜひともそことも連携をとりながら、子育てに取り組んでいきたい。皆さんには、あさってからの学びフェスタでオープニングは保育所の演技、それから中高の演奏もあれば、また企業のほうも出店もしていただいているということで、ま

さに府中全域で学びについて取り組んでいこうということをやっていたわけでありますので、ぜひともこれを、まさに可能性も広がるように取り組んでいきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

石川部長 市長、ありがとうございます。新たな府中市教育大綱につきまして、今市長もある種取り組みの決意を言われたのですが、本日委員の皆様から出ました御意見等も参考といたしまして、次回の総合教育会議において取りまとめしていきたいと思っております。

それでは、続きまして、本日2点目となるのですが、報告事項といたしまして。よろしいですか。

既に新聞報道などで御存じかと思いますが、コミュニティ・スクール全国大会を来年府中市で8月2日に開催することが決定いたしました。北海道三笠市で開催されましたことしの全国大会に平谷教育長が出席いたしまして、その様子など見てまいっておりますので、それらを含めまして来年度コミュニティ・スクール全国大会に向けた思い、それから感想を言っただけであればと思っております。よろしくお願いいたします。

平谷教育長 じゃあ10分ばかり時間いただこうと思っております。今月の11、12の木、金でしたけれども、全国コミュニティ・スクールの研究大会に参加をしてきました。この大会は、主催の全国コミュニティ・スクール連絡協議会という協議会と文部科学省、そして加入する市町、これが一緒になって主催をして行う会でございます。平成23年度から開催されていて、今回で8回目ということでございます。この研究大会は、コミュニティ・スクールの拡大、まだまだ全国的には今の段階で全国の小中高の15%ぐらいかな。まだそれぐらいなので、どんどん広がっていかうと。少しずつ広がっていますけれども、実践交流によって各コミュニティ・スクールの取り組みの充実を図っていかうという、そういう目的で開催されております。例年この大会は7月下旬から8月上旬、夏休みに入ってからすぐの時期に開催されておりますけれども、大体1,000人から1,500人規模という会でございます。過去近くでは、下関市とか岡山市、結構大きいところですね。そして県庁所在地で言えば京都市とか岐阜市とか、そういうところで開催をされた経緯がございます。

本年度は、10月ですから例年より時期がもう2カ月ずれておりまして、北海道の三笠市で行われました。参加者はメイン会場がちょっと小さいということもあって、500名余りの参加者です。そのうち85%が北海道内からの参加者ということで、北海道の方が多かったというような状況でした。

中身より初めにちょっと三笠市の説明というか、紹介をさせてもらおうと思うのですが、札幌から北へ車で約1時間です。北海道の真ん中あたりに位置して、びっくりしたのですが、人口が9,000人弱でした。これでも市なんだと驚きました。ただ歴史的には北海道の石炭、そして鉄道、これの発祥の地だそうです。そして、アンモナイトと言う化石を採出する地質学的には非常に重要な地域だと言われていまして、市内には鉄道記念館とか、あるいはアンモナイト化石の市立博物館などがございます。人口は少ないですが、そういった施設も十分あるような町でございました。市内には小学校2校、そして中学校2校、いずれもコミュニティ・スクールでございます。特徴的なところで言えば、三笠高校という高校がございます。これは道立から三笠市立高校になって7年目の高校ということでした。この高校は、道内唯一の食物調理科のみの学校で、調理師コースと製菓コースの2コースがあって1学年が40名定員の学校ということでした。まずは市立高校があったのにびっくりしたのですけれども、研究会をやった会場の近くにその高校もありましたが、その道を挟んだ前に、実は7月にオープンしたばかりの高校生レストランの建物がありました。これも市がつくった建物だとお聞きしたのですけれども、その高校生レストランの中には調理部が運営するレストランと、製菓部が運営するカフェですね。これがありまして、土日には市民などに食事等を提供して大好評のようでございます。ちょうど金曜日だったので、土日行けなかったのですけれども、朝11時から開くのに9時ごろから並んで、11時に行ったら多分食べれないのではないかというような話で、1日200食ぐらいですかね。それぐらい提供しているようで、大盛況のようでした。そういう状況です。

その中には、お土産物を販売しているコーナーも持っていて、これは市内には別に道の駅もあるので、それ以上の

施設を市がつくっているところでした。

生徒の約9割が寮生活をしている。寮も完備していると。入学してくる生徒は道内の多くの市町からのようですが、ほとんど道内から来ている。最近では道外ですね。本州のほうからも問い合わせがあるというようなこともおっしゃっていました。市長さんに聞きますと、前市長さんが計画をされて、三重県に同様の施設があるのですかね、高校生レストラン。それを見にいかれて、これはいいということで、市の活性化等も踏まえて開校したという高校でございました。それにまず私はびっくりしました。

ちょっと話が脱線したのですが、研究会前日の11日、木曜日は、全国コミュニティ・スクール連絡協議会、さっき言った主催の連絡協議会の総会が開催されて、これは現在の全国の72市町村が加盟をしているという協議会なのですが、広島県の中では尾道市とそれから北広島町、そして府中市は昨年からの加盟しているというところですね。加盟してすぐ全国大会をやらせてくれるというのもちょっと気が引けたのですが、そういう状況です。総会の議事の中で平成31年度の全国研究大会の開催を広島県府中市ですというものが決定されたというところがございます。総会後にレセプションというのがありまして、100名近くの方がいました。親睦・交流ということで2時間半開催されましたけれども、参加されている協議会会長、京都市の教育長さんとか、あるいは文部科学省の方とか、いろいろ話はさせていただきました。まず三笠市も含めて開催された教育長さんに聞きますと、大変だったという声を聞きました。大きな市町はいいのですけれども、そうでないところはやっぱり事務局の人数的なことであってなかなか調整したりとか準備をしたりというのはかなり労力がかかったようでございます。

レセプションの終わりには府中市から持参しました来年度の案内を示しながら、時間は大分オーバーしたのですが、広島県府中市の紹介も随分させてもらいました。それから、翌日の研究大会なのですが、今回のテーマは「ふるさと回帰」～地域の未来を創る子どもを育むコミュニティ・スクール～ということで開催されまして、大体的流れは午前中は4つ

の分科会がありまして、1つの分科会で3つの実践発表、全部で12の実践発表がございました。開催地三笠市からは1事例の発表だったということです。府中の場合、そこら辺はもうちょっとたくさん事例発表ができればありがたいなということは感じながら見させてもらいました。それから、その後は昼食休憩を挟んで開会行事ということなのですが、開会行事までの前30分間、三笠氏の小・中学生による歓迎アトラクションということがございまして、ブラスバンドの演奏とビデオメッセージということでありました。ブラスバンドの演奏なのですが、初め見たときには中・高生かなと思って見ていたのですが、小・中学生でした。それぐらいすばらしい演奏をしていました。隣に三笠市の教育長さん座っておられたので、すばらしいですねと言ったら、札幌交響楽団から定期的に指導に来ていただいているのだというような話もしていただきました。それから、ビデオメッセージでは子どものほうからこの言葉すごいなと思ったのですが、三笠市は子どもを大切にしてくれる町ですと。自分の言葉でそんな言葉も述べていましたので、すばらしい子どもがいっぱい育っているなというのは感じさせてもらいました。

開会行事後はもう基調講演とパネルディスカッションということで、特にパネルディスカッションにつきましては、地元三笠市のワイナリーを経営されている若い人、30歳ぐらいですかね。保護者とも言われていましたけれども、その方が登壇されて、随分地元でそういう経営を始めた。やっているということの思いとか、やっぱり子どもたちが地元にしっかり残って一緒に取り組んでほしいだとか、そういうような話を随分熱く語っておられました。それから閉会行事があったわけなのですが、そこでも次期開催地からの挨拶ということで登壇させてもらいまして、きょうの熱い思いは来年度府中市が受け継ぎますと宣言させていただきました。こうして2日の日程は終了したのですが、先ほど部長も言いましたように、来年8月2日、府中市で開催するということは決まりましたので、例年より2カ月おくれになっているという状況もございしますが、急ピッチで準備を進める必要がございまして、来月早々には準備会も立ち上げてスタートしていきたい。このように考えていると

ころでございます。

本当、コミュニティ・スクールということで、学校、保護者、地域の方、そして先ほど市長さんも言われていた企業の方ですね。これに随分参画していただいて、大変心強いと私も思っています。そして教育委員はもちろんなのですが、それから府中市のPRも含めてできる大会じゃないかなと私は思いますので、市を挙げて開催できたらと、このように考えておりますので、またいろいろな面で御協力をよろしく願います。一緒に取り組んでいただきたいと思います。

以上です。

石川部長

ありがとうございました。

それでは、本日の会議では、小野市長から府中市教育大綱(案)が提示されまして、その内容について御協議いただきました。委員の皆様から多くの御意見をいただき、大変ありがとうございます。次回第3回の総合教育会議では、本日御協議いただきました内容も踏まえ、小野市長から最終案を御提示いただき、策定としていきたいと思っております。また、府中市教育委員会事務局といたしましても、具体的な施策や事業につきまして、またコミュニティ・スクール全国大会の開催を契機として、さらに推進していくべき事項などについて、新年度予算へいかに反映させ、新しい府中市教育大綱に沿った施策をどのように実践していくかを準備してまいりたいと思っております。

最後になりましたが、本日も会議の進行に御協力いただきまことにありがとうございました。

次回は、11月21日、水曜日、午後3時30分から、教育センターで開催いたしますので、御参加よろしく願います。

本日はありがとうございました。